

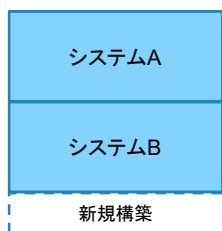
| | |
|--|---|
| <p>1. はじめに</p> <p>2. 想定される背景</p> <p>2.1 模索段階にあるDX推進</p> <p>2.2 既存システムにおける問題</p> <p>2.2.1 DXに適さない既存システム構造</p> <p>2.2.2 レガシーシステムに至る背景</p> <p>2.2.3 IT投資の実情</p> <p>2.2.4 IT投資の日米比較</p> <p>2.3 組織・人材面の課題</p> <p>2.4 ベンダー企業との関係性</p> <p>2.5 既存ITシステムの崖（2025年の崖）</p> <p>3. 対応策の検討</p> <p>3.1 DX推進のためのアクションプログラム</p> <p>3.2 ベンダー企業との新たな関係性の追加</p> <p>3.3 IT人材の育成・確保</p> | <p>4. IT子会社</p> <p>4.1 子会社化の時期と背景</p> <p>4.2 1人あたり売上高</p> <p>4.3 売上高と従業員数</p> <p>4.4 設立目的</p> <p>4.5 外販の分析</p> <p>4.5.1 外販比率</p> <p>4.5.2 外販の成功ケース</p> <p>4.5.3 外販の失敗ケース</p> <p>4.6 IT子会社の課題</p> <p>4.7 2010年以降の動向</p> <p>4.8 IT子会社は有効な手段となりえるか？</p> <p>4.9 子会社化メリット・デメリット具体例</p> |
|--|---|

引用文献・参照情報先一覧
IT子会社の調査一覧（別紙）

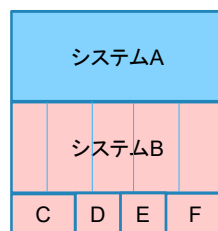
（レポート例）3.2 ベンダー企業との新たな関係性の追加

- 開発手法は、これまでのウォーターフォール型の開発は残るものの、アジャイル開発が広がると考えられており、その際、既存システムのマイクロサービス化など置き換え段階においてはベンダ主体で開発され、マイクロサービス化済みや新規構築されるシステムについてはユーザー主体で開発されるなど、従来の要件定義は準委任契約、設計開発は請負契約などとは異なる関係性が増える可能性がある。
- 従来のパートナーシップのみでなく、アジャイル、クラウド上でのシステム開発を得意とする小回りの利く新規ベンダーの参画も検討しつつ、何よりも自社体制の強化が求められる。

これまでのシステム開発
（すべてウォーターフォール型）



これからのシステム開発
（ウォーターフォール型+アジャイル開発）



これまでどおり変更なし

ベンダ主体でマイクロサービス化
その後ユーザー主体で開発（ベンダは指南役）

アジャイルでユーザーが新規構築（完全内製化）

| | |
|--|-----------|
| | アジャイル |
| | ウォーターフォール |